

# 「現場の価値観」

はじめに

施工の現場におきましては、何を大切に、何を中心にすればよいのか、判断に迷うことがあります。特にひっ

第22回

# 現場必勝セミナー

株式会社 フォンシュレーダー・ジャパン 代表取締役社長  
岡本 英男

迫した状況下であったり、困難な問題を解決していかなければならぬ現場であったりするほど、混乱してしま

うことがあります。そうしたことが起こらないようにするためにはどうしたらよいのか。今回は現場の価値観という観点から、特

に大切と思われる点を伝統的な価値観からひも解いてみたいと思います。

## 縦の軸と横の軸

まず、施工の現場に入るときに理解しておかなければならない原則論として、縦の軸と横の軸があるというお話をします。

縦の軸というのは、以前の回でお話ししましたように、責任者がお客様の依頼を受けて現地調査を行い、施工仕様書と施工見積書を

提案し、お客様から発注書が届き、請書を返送します。ここまでくれば、スタッフに対して施工計画書あるいは施工説明書を作成し、実際の施工の準備に入ります。そして現場に

入り、施工を仕上げ、その後は施工完了報告書と請求書を出し、入金確認がなされて施工終了となる次第です。

この一連の流れを縦の軸と呼びます。大きな会社ほどこのような手続がなされていると思われませんが、小規模な会社でも必ず何らかの縦の軸があると思

います。

この縦の軸の根底に一貫して流れているものは、お客様の依頼に対して技術をもって応えるという責任者の思い、責任感、サービス精神を込めた構想です。この構想が施工におけるもっとも大切なポイントであり、これを中心として縦の軸が形成

されているといっても過言ではありません。では横の軸とは何でしょうか。それは現場への搬入、そして施工が終了して搬出するまでの流れのことを言います。

この横の軸で最も大切にしなくてはならないのが、先に申し上げた縦の軸に流れる責任者の構想です。言い換えれば、縦の軸の根底に流れる構想を横の軸で展開し、実現してい

くのが現場での施工ということになります。

従いまして、縦の軸と横の軸がしっかりと

対応することで施工の成功へとつながります。責任者はスタッフに対して、施工計画書、施工説明書などを通して、縦の軸の構想をよく理解してもらったことが大切です。

当然のことながら、人員の配置から、役割分担、資機材の手配に至るまでの構想を実現

するため、実際の現場でどのような施工を提案するかを、スタッフ一同でシミュレーションしていかなければなりません。また、スタッフは責任者の構想をよく理解することで、その実現に向けて、良いアイデアがあれば提案するなどして、積極的に

にかかわっていくことが大切です。

## 運命共同体

次にあげるのは、運命共同体という考えです。先に述べました縦の軸としての責任者の構想を、横の軸として実際の現場で展開し、実現していくのが施工であるとするれば、そこで大切になるのが運命共同体という考え

です。この考え方は、日本の伝統的価値観に基づいたものだと思いますが、現場施工においても大切な考え方だ

と思います。

縦の軸、横の軸とい

う考え方を根底にしなから、実際の現場ではその施工が成功してこそ、その会社やチームの存在意義が定まり、高まってくるようになります。逆に、現場での施工が失敗に終わ

## 滅私奉公

指していくことが大切

です。

滅私奉公という言葉も古い価値観かもしれませんが、現場にあっ

てはこれほど重要で貴重な価値観はないと思われ、それを繰り返してしまおうのでは、その会社やチームの将来性はないと言えます。

責任者もスタッフも施工の成功のために互いに協力し合い、力を合わせていくことが必須の要件となりま

す。現場に入るにあたって、この価値観を共有できるかどうか

が施工の成否に大きくかわってきますので、責任者もスタッフも

常々この点の一致を確保し合うことが重要です。

## 親しき仲にも礼儀あり

仮に個人的な事情や価値観があったとして

も、いったん現場に入ればそうしたことば脇に置き、チーム全体の目的である、施工の成功のために邁進することが必要です。そう

いって、現場施工において互いに支え合い、足らないところを補い合いながら施工の成功を

目指していくことが大切です。

いった心の管理ができる人のことをフロと呼ぶのではないのでしょうか。

そのような気持ちを持った人というのは、犠牲的精神を発揮し、施工の成功のため

に、チームのために全力で取り組み貢献してくれ

るものです。わかりやすく言えば、誰よりも率先して働き、誰よりも苦勞をいとわず、誰よりも大変なところを引き受けてくれるような人のことを言います。

もしこのような人ばかりが集ったチームがあるとすれば、そのチームは現場でものごとをこなすことができます。

結果的にその指示や命令が素直に受け止められないだけでなく、スタッフ

が人格を傷つけられたとして職を辞するということにつながります。

その一方で、体力の衰えを見せる責任者

## 笑う門には福来る

このことわざは、辛いことや悲しいことがあっても笑顔

を絶やさず、前向きな気持ちでいれば、その現場はど

んも明るいと思われ、幸福が訪れるだろうという意味で使われますが、現場に入ると

き、緊張のあまり怖い顔になってしまいがちです。本人は気が付かないものですが、周りにあまり良い影響を与えません。むしろ現場に不必要な緊張感を与え、「今日の責任者は機嫌が悪いな」とか「このスタッフはいつか何を怒っているんだろ」などと、あらぬ誤解を生むことにもなりかねません。どんなに大変な時であっても、笑顔を忘れないということはそれだけで貴重なことです。みんなの緊張を解きほぐすようなユーモアがある人がいるとすばらしいです。

- 【岡本英男氏経歴】
- 岡山県岡山市出身
- 中央大学理工学部卒業
- (公社)全国ハウスマネジメント協会理事
- クリーン環境衛生管理技術者



## まとめ

現場における施工の鉄則について、大切と思われる点を例を挙げて説明してまいりました。

これらは施工の鉄則としてはほんの一部かもしれませんが、何かの時の参考にしたいだけのことです。施工を成功に導いていただければ幸いです。